



資料提供年月日	令和5年1月24日	
問い合わせ先	課名	文化振興課
	電話	直通 803-1054 内線 3743
	担当 (職・氏名)	課長 岡村 副主幹 上林 主事 西川

広報連絡

〈市長定例記者会見資料〉

- 1 件 名 第38回「坪田譲治文学賞」の受賞作決定について
- 2 趣 旨 岡山市出身でわが国の児童文学に多大な功績をのこした故・坪田譲治氏（岡山市名誉市民）を称える「坪田譲治文学賞」の本年度の受賞作決定について発表します。
- 3 受賞作 『ぼくんちのねこのはなし』 くもん出版
いとう みく 著
- 4 選考経過 令和3年9月1日から令和4年8月31日までの1年間に、全国で刊行された小説・児童文学等の中から、小説家・児童文学者等から推薦された101作品について、予備選考会を経て候補作5作品を選定しました。
これらを令和5年1月17日（火）開催の選考委員会において審査し、上記の作品が選ばれました。
- 5 贈呈式・記念行事
○日 時：令和5年3月4日（土）14時～15時30分
○場 所：岡山市民会館（北区丸の内二丁目）
- 6 問い合わせ先
岡山市文学賞運営委員会事務局
〒700-8544 岡山市北区大供一丁目1-1 岡山市文化振興課内
TEL：086-803-1054 FAX：086-803-1763
E-mail：bunkashinkou@city.okayama.lg.jp

[添付資料]

- 資料1 第38回「坪田譲治文学賞」受賞作について
- 資料2 「坪田譲治文学賞」について
- 資料3 「坪田譲治文学賞」受賞作一覧
- 補足資料 取材について

第38回「坪田譲治文学賞」受賞作について

(文中敬称略、50音順)

受賞作	『ぼくんちのねこのはなし』 くもん出版
受賞者	いとう みく
正賞	賞状及び記念品（メダル『鳥の少年』蛭田二郎作）
副賞	100万円

◆選考経過

令和3年9月1日から令和4年8月31日までの1年間(※)に全国で刊行された小説、児童文学等の中から、小説家・児童文学者等から推薦された101作品について、「大人も子どもも共有できる世界を描いたすぐれた作品」という観点で、予備選考会を経て候補作5作品を選定。

これを、令和5年1月17日(火)開催の第38回坪田譲治文学賞選考委員会(会場：東京都千代田区平河町「ルポール麹町」)で慎重に審査した結果、いとう みく著『ぼくんちのねこのはなし』が選ばれた。

選考委員は、阿川佐和子、五木寛之、川村湊、中脇初枝、西本鶏介、森詠、森絵都の7名。

※選考の基準日は9月1日(岡山市文学賞条例施行規則第2条)

◆受賞者略歴

作家 いとう みく

神奈川県生まれ。『糸子の体重計』(童心社)で日本児童文学協会新人賞、『空へ』(小峰書店)で日本児童文芸家協会賞、『朔と新』(講談社)で野間児童文芸賞、『きみひろくん』(くもん出版)でひろすけ童話賞、『あしたの幸福』(理論社)で河合隼雄物語賞を受賞。『二日月』(そうえん社)、『チキン!』(文研出版)、『つくしちゃんとおねえちゃん』(福音館書店)が青少年読書感想文全国コンクールの課題図書に選ばれた。その他の作品に、『かあちゃん取扱説明書』(童心社)、「車夫」シリーズ(小峰書店)、『ちいさい おねえちゃん』(岩崎書店)などがある。全国児童文学同人誌連絡会「季節風」同人。

◆作品の概要

ぼくんちのねこ・ことらは16歳。ぼくが生まれる前から、うちの家族だった。ちょっと前まで、すごくいたずらだったことらは、最近は机の上にもタンスの上にもおとなしくなってしまう。ぼくの部屋にきても、ベッドの上で丸くなって眠っていて、好物の焼きのりも、ドライフードも食べなくなった。

ある日、学校から帰ってくると、ことらの具合が悪そうだから、病院に連れていってお母さんがいいた。病院で色々検査をしたあと先生は、ことらは「腎不全」という病気だといった。腎不全は高齢のねこに多い病気で、完全に治ることはないらしい。

病院からの帰り道、お母さんは診察料が高かったって話をはじめた。動物病院は保険がきかないから、診察料が高くなるんだって。こんなときにお金のお話をするなんて……お母さんはことらのことが心配じゃないのかな。

それからは、ことらを病院に連れていく日々がはじまった。ことらの状態は良くなったり、悪くなったりを繰り返していくけれど……。

◆受賞者コメント

物語を書くとき、そこにはいつも描きたい人がいます。その人がなにを背負い、なにを守ろうとして、なにに苦しみ、どんなことに喜びを感じるのか。そして明日へどう踏み出していくことができるのか。それを知りたくて書いています。ですが『ぼくんちのねこのはなし』は、少し違います。飼いねこの闘病中、やるせなさはどうしようもなくなったとき、この状況を書いてみようと思いました。ただし日記や記録ではなく、物語として。書きながら迷い、泣き。書くことで気づかされ、そして救われました。この作品に坪田譲治文学賞を授けていただき、ありがとうございました。

◆選考委員のコメント 阿川佐和子（エッセイスト、小説家）

昨年ほどではなかったものの、今年も各審査員の意見は分かれ、きわめて熱量の高い審査会となりました。それは決して審議の空気が悪くなったのではなく、むしろ白熱するほどに、それぞれの候補作のエネルギーが強いからです。三十八回目を迎えたこの坪田譲治の名を冠した文学賞が、単に「子供たちが親しみやすく読みやすい物語」を求めるのではなく、もっと深い心を養うための作品を模索しようと進化している証ではないかと思われまます。本年の受賞作もまた、リズムカルな文章の流れの中で心に染み入るいい作品だったと思います。

「坪田譲治文学賞」について

(文中敬称略、50音順)

岡山市出身で、わが国の児童文学に新しい分野を拓いた坪田譲治のすぐれた業績を称えると共に、市民の創作活動を奨励し、市民文化の向上に資することを目的として、昭和59年12月に「坪田譲治文学賞」を制定しました。

◆坪田譲治文学賞

[目 的] 岡山市出身の小説家・児童文学作家で、岡山市名誉市民の坪田譲治の文学活動における偉大な業績を称えるとともに、市民の創作活動を奨励し、市民文化の向上に資する。

※坪田譲治 (つばた じょうじ)

明治23年(1890年)3月3日生～昭和57年(1982年)7月7日没

[対 象] 9月1日を基準日とし、前1年間に刊行された文学作品(小説、児童文学等)。

[選 考] 文学・出版関係者等から推薦された作品について、「大人も子どもも共有できる世界を描いたすぐれた作品」という観点で、予備選考会を経て候補作4～6作品程度を選定。その中から選考委員が最終選考を行い、受賞作を選定する。

[表 彰] 正賞 賞状及び記念品(メダル『鳥の少年』蛭田二郎作)

副賞 賞金100万円

[選考委員] 阿川佐和子、五木寛之、川村湊、中脇初枝、西本鶏介、森詠、森絵都(7名)

「坪田譲治文学賞」受賞作一覧

回次	年度	作品名	著者名	出版社名
第1回	S60	心映えの記	太田 治子	中央公論社
第2回	S61	ふたつの家のちえ子	今村 葦子	評論社
第3回	S62	ぼくのお姉さん	丘 修三	偕成社
第4回	S63	四万十川ーあつよしの夏	笹山 久三	河出書房新社
第5回	H1	身がわりー母・有吉佐和子との日日	有吉 玉青	新潮社
第6回	H2	おどる牛	川重 茂子	文研出版
第7回	H3	こうばしい日々	江國 香織	あかね書房
第8回	H4	卵洗い	立松 和平	講談社
第9回	H5	半分のふるさとー私が日本にいたときのこと	李 相琴	福音館書店
第10回	H6	オサムの朝	森 詠	集英社
第11回	H7	泣けない魚たち	阿部 夏丸	ブロンズ新社
第12回	H8	ぼくたちの<日露>戦争	渡辺 毅	邑書林
第13回	H9	ぼくはきみのおにいさん	角田 光代	河出書房新社
第14回	H10	ナイフ	重松 清	新潮社
第15回	H11	ウメ子	阿川 佐和子	小学館
第16回	H12	ニライカナイの空で	上野 哲也	講談社
第17回	H13	翼はいつまでも	川上 健一	集英社
第18回	H14	麦ふみクーツェ	いしいしんじ	理論社
第19回	H15	人形の旅立ち	長谷川摂子	福音館書店
第20回	H16	ペーターという名のオオカミ	那須田 淳	小峰書店
第21回	H17	ぎぶそん	伊藤 たかみ	ポプラ社
第22回	H18	空をつかむまで	関口 尚	集英社
第23回	H19	しずかな日々	椰月 美智子	講談社
第24回	H20	戸村飯店青春100連発	瀬尾 まいこ	理論社
第25回	H21	トーキョー・クロスロード	濱野 京子	ポプラ社
第26回	H22	おれのおばさん	佐川 光晴	集英社
第27回	H23	鉄のしぶきがはねる	まはら 三桃	講談社
第28回	H24	きみはいい子	中脇 初枝	ポプラ社
第29回	H25	世界地図の下書き	朝井 リョウ	集英社
第30回	H26	クリオネのしっぽ	長崎 夏海	講談社
第31回	H27	いと森の家	東 直子	ポプラ社
第32回	H28	Masato	岩城 けい	集英社
第33回	H29	キジムナーkids	上原 正三	現代書館
第34回	H30	ペンギンは空を見上げる	八重野 統摩	東京創元社
第35回	R1	あららのはたけ	村中 李衣	偕成社
第36回	R2	もうひとつの曲がり角	岩瀬 成子	講談社
第37回	R3	旅する練習	乗代 雄介	講談社
第38回	R4	ぼくんちのねこのはなし	いとう みく	くもん出版

●受賞者への取材について

電話取材を希望される場合は、株式会社くもん出版様へご連絡ください。

◆連絡先

株式会社 くもん出版 和田様
電話 03-6836-0314
携帯 090-9117-5300

●書籍について

書籍が必要な場合、文化振興課（上林・西川）までお問い合わせください。

●受賞者の写真、書影について

受賞者の写真、書影データが必要な場合、文化振興課（上林・西川）までお問い合わせください。